

日々 往来



田口 哲也

今年の小規模企業白書(中小企業庁)では、人手不足が続く中、事業経営者が従業員の新規採用や人材育成を進めるのではなく、自らの労働時間を増やし、休日を削ってカバーする姿が浮き彫りにされている。

その結果、経営者自身が煩雑な仕訳や記帳、給与・勤怠管理などに追われ、最も時間を充てたい営業戦略や事業の将来像、次世代への継承方法をじっくり考える余裕が奪われていることは想像に難くない。地域経済にとっても大きな損失といえる。

忙中閑を生み出すのもフィンテック

こうした悪循環は、最近インターネットバンキング近のフィンテックの進展は有料としても、合計で毎月1回程度の懇親会参加により、かなり安価で容易に解決できるようにな加と大差ない計算だ。加った。同白書でも紹介させて、中小企業・小規模事業者対策にかかると、既公的サポートを利用可能に県内の預金取扱金融機関(銀行・信金・農漁業系金融機関など)の口座は、業界を挙げてフィンテックを活用したさまざまな取り組みが進められている。今後は、先端的な動きだけでなく、企業での購買・調達や受発注データ消込みといった日

常業務にも、安価で使えれば、税務申告や金融機関提出用の帳簿作成の手間解消につながる。以前は、財務・会計システムを整備しようとすれば、サーバーや専用端末の設置が高かった時代もあった。

これに比べ、現在普及が進みつつあるソフトの利用コストは、クラウド化のおかげで、月当たり野口英世数枚程度で済むようだ(福沢諭吉ではない)。

法人名義口座のイ

中小企業庁の調査によれば、クラウド会計導入による月次処理の人員削減効果は2・6割に上るそう。人手の時給や懇親会費用と比べて割が良

身近な金融機関や支援機関、ITベンダーなどに相談してみることをお勧めしたい。

(日本銀行鳥取事務所長)